特集 コロナに負けず、“いま”できる活動を！

新型コロナウイルスが猛威を振るっているいま、私たちの日々の暮らしも大きな影響を受けています。人とのつながりの中で行われてきたボランティア活動も制限され、活動が困難な状況でもあります。そんな中、いまできる活動を考え、実践している団体もたくさんあります。今回は、３つの団体の活動をご紹介します！

福井市介護者家族の会（かたらい会）

▲例会の様子

介護者家族の会は、ふだん、寝たきりや認知症・障がいのある方等を介護している方々が、介護経験者と心おきなく語り合うことで、笑顔の介護につなげられるよう活動している団体です。新型コロナウイルスの影響で集まることが難しい中、「みんなとしゃべりたい」という会員の声をきっかけに、電話相談の体制を強化。現在介護をしている会員に月１回定期的に電話やメールで連絡し、相談を受けています。

役員の皆さんは、「電話で話すだけでも、ストレス解消や気分転換になる。こんなときだからこそ、工夫してつながりを持っていきたい」「いつ誰が感染するか分からない中、介護をしている方は、家族が感染したときにどうするか、事前に話し合ってほしい」と、介護経験者ならではの思いを話してくれました。

おもちゃ箱の会

▲マスクづくりの様子

おもちゃ箱の会は、ふだん、布のおもちゃを制作し、おもちゃ図書館で無料貸出をしています。活動を自粛していた３月中旬、県外の高校生が手づくりマスクを寄贈したニュースに胸が熱くなり、「ふだんから布おもちゃをつくっている自分たちだからこそ、マスクをつくれるよね！」とメンバーと連絡を取り合い、マスクづくりを始めました。

代表の野村さんは「マスクをつくっても、誰に渡せば良いのか自分たちでは分からず戸惑っていたため、手づくりマスクプロジェクト(※)に協力したいと思った」と話してくれました。

自宅でのマスクづくりの他、材料を希望する方への発送準備や届いたマスクの確認などにも協力し、メンバーさんは「こんなにたくさんのマスクが届くとは。人の力ってすごい！」「みんなの温かい気持ちが伝わるといいな」と話しながら袋詰め作業を進めていました。

折り紙ボランティア　ブーケ茶論

▲折り紙リボンづくりの様子

ブーケ茶論は、ふだん、高齢者施設で利用者と一緒に季節の折り紙作品をつくる活動をしています。新型コロナウイルスの影響で施設での活動ができなくなり、「自分たちが得意な折り紙でリボンを折って、手づくりマスクプロジェクト(※)で集まったマスクを飾り付けられないか」と提案してくれました。

作業当日は、自宅で折ったリボンを持ち寄り、個包装した袋に１つずつ貼りつけてくれたメンバーの皆さん。予想をはるかに上回るマスクの量に驚きながらも「外出自粛で会えない中、メンバー間で連絡を取り合えたり、目標をもって自宅での活動ができて良かった」とプロジェクトに関われたことの喜びと達成感を話してくれました。

(※)手づくりマスクプロジェクトについては、２～３ページをご参照ください。